

自転車に乗っているとき…。あなたは交通弱者ではありません。

あなたも！自転車事故 ～6,000 万円の損害賠償～

大阪市長市岡東中学校長 西村 誠

9月21日から9月30日までの10日間は「秋の全国交通安全運動」です。

その中での大阪重点は【二輪車の交通事故防止】

次は、以前起こった事故による民事訴訟裁判の結果です。

- | | |
|---|------------------|
| ・塾からの帰宅途中、無灯火で走っていて(中学生)歩行者に気付かず衝突し、相手が転倒し死亡した。 | → 損害賠償額 3,912 万円 |
| ・通学途中に走っていて(高校生)、歩行者に衝突し、脊髄損傷による心身麻痺を負わせた。 | → 損害賠償額 6,008 万円 |

今、こうした自転車と歩行者の事故が多発しています。

1 自転車事故が増える理由

【自転車事故に対する危険意識の薄さ】



このために事故があると想定して「自転車保険」に入っておくことが大切です。

(大阪では 2016.7.1 より条例で保険加入が義務付けられています。)

突然、1,000 万円の支払いを命じられたら…。 家庭でもしっかりと乗り方について注意してください。他人ごとではなくなる可能性があります。

2 自転車側の過失が大きくなる理由

【夜間、無灯火で走行】【2人乗り運転】【携帯電話・メールをしながらの運転】



このような状況で事故を起こすと責任(損害賠償額)は大変、重くなります。

たかが自転車、されど自転車。

自転車は「軽車両」と同じ扱いとなります。従って罰則が道路交通法で定められています。【重い！懲役または罰金！】

自転車事故を起こした場合

1 取るべき義務

自転車に乗っていて歩行者やお年寄り・小学校児童の乗る自転車と衝突事故を起こした場合、道路交通法 72 条により自転車の運転手(中学生でも)は、次の措置をとることとあります。

(1) 負傷者の救護

事故を起こして、相手方を負傷させた場合は、ただちに負傷者を救護し、救急車を呼ぶなどの救護活動をしなければならない。

(2) 警察への通報

事故発生の場所、死傷者数、負傷の程度、事故について行った対処など

2 問われる責任

交通事故を起こして相手方を負傷させたり、ものを壊した場合は、中学生でも次のような法律上の責任が生じます。

(1) 民事上の責任

損害賠償という形で金銭上の責任が問われます。

例 自転車通行が許可されている歩道で 16 歳の男子生徒が乗っていた自転車のハンドルが、歩道を歩いていた 61 歳の女性のショルダーバックの肩ひもに引っ掛かり、転倒した女性が大腿骨骨折の重傷を負った。

↓

〈過失割合と補償額〉 ① 自転車の過失 100% ② 賠償額 1,740 万円

〈裁判所の見解〉

歩道上は人で混んでおり、自転車でやっと通れる状態であった。男子生徒は人と接触してケガをさせることが予見できたにも関わらず、その注意義務を怠った。そのようなことが起きないように自転車の運転に注意を払い、場合によっては降りて手押しすべきであった。(東京地裁)

(2) 刑事上の責任

自転車の事故でも相手を死傷させた場合「過失傷害罪、過失致死罪」

(刑法 209・210 条)となります。

自転車による事故から自分を守る！マナーを守ることは絶対条件です！
二人乗り、携帯をしながらの運転、信号無視、スピード出し過ぎ、夜間の無灯火運転はダメです。やめましょう。

もしもの時には…。

あわてないで保護者や身近な大人にも連絡しましょう。

我々の日常生活に欠かせない便利な道具の一つが自転車です。しかし、

その最高性能は安全であることを忘れてはなりません。

「被害者にならない！ 加害者にならない！」